

学生生活に関する実態調査報告書

令和3（2021）年度

柴田学園大学

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
0. 学生属性	2
1. 日常生活について	2
2. 課外活動について	4
3. 経済的状況	5
4. 修学状況	8
5. 大学施設について	18
6. 進路希望について	21
7. 学生生活について	27
8. 迷惑行為について	31
9. 新型コロナウイルス感染症の影響について	33
III まとめ	36

I 調査の概要

この調査は、柴田学園大学学生委員会により、本大学の学生の生活の様子を把握し、今後の修学や大学生活の充実を目的とした基礎資料の収集を目的として実施された。

調査期間

2022年2月下旬から3月上旬

調査方法

全学生を対象とした。実施方法は調査項目をフォームに準備し、Web上で回答を求めた。無記名で、結果は統計的にコンピュータで処理し、個々人の結果を取り上げることはなく、個人のプライバシーに関わることはないように配慮した。

調査内容の構成

質問内容は、次の項目である。

- | | |
|-------------|------------------------|
| 0. 学生属性 | 6. 進路希望について |
| 1. 日常生活について | 7. 学生生活について |
| 2. 課外活動について | 8. 迷惑行為について |
| 3. 経済的状況 | 9. 新型コロナウイルス感染症の影響について |
| 4. 修学状況 | 10. 自由記述 |
| 5. 大学施設について | * 頁の関係上、自由記述の掲載は割愛した。 |

有効回答数

241名（健康栄養学科114名、こども発達学科127名）。調査実施時（令和4年3月）の在籍者数は281名であったので、この有効回答数は、全在籍学生の85.8%にあたる。

集計結果

調査の集計結果は、アンケートの質問番号の順に表示していく。また、この集計結果で算出されたパーセンテージは、数値を小数点以下2桁で四捨五入して表示しているため、必ずしも合計が100.0%になるとは限らない。

II 調査結果

0. 学生属性

この調査に参加した学生の学科と学年の内訳は、下記の表に示した。

表 Q1 所属学科と Q2 学年のクロス集計

学科\学年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	合計
1 健康栄養学科	34	28	27	25	114
2 こども発達学科	32	33	36	26	127
合計	66	61	63	51	241

1. 日常生活について

このセクションでは、学生の日常生活を把握するために学生の住まい、通学方法やそれに掛かる時間などの質問を行った。

Q3 通学時の住まいの形態は？

選択肢	度数	%
1.自宅	150	62.2
2.大学の寮	22	9.1
3.アパート・下宿・マンション	68	28.2
4.その他	1	0.4
合計	241	100.0

自宅（家族と同居）が 150 名（62.2%）、大学の寮が 22 名（9.1%）、アパート・下宿などが 68 名（28.2%）であり、半数以上の学生は自宅通学であった。

Q4 通学時の住まいのあるところは？

選択肢	度数	%
1.弘前市内	162	67.2
2.弘前市外(県外も含む)	79	32.8
合計	241	100.0

通学時の住まいは、弘前市内が 162 名（67.2%）、弘前市外（県外も含む）が 79 名（32.8%）で、大学所在地である弘前市内に住む学生が 7 割弱であった。

Q5 通学についてについておたずねします。（質問内容は①～④について）

- ① 夏期の通学の交通手段は？（該当する番号をすべて記入）
- ② 夏期の通学の片道に掛かる時間は、約何分ですか？
- ③ 冬期の通学の交通手段は？（該当する番号をすべて記入）
- ④ 冬期の通学の片道に掛かる時間は、約何分ですか？

表 ①と③交通手段の集計

選択肢	夏期		冬期	
	度数	%	度数	%
1.自転車	130	33.5	3	0.9
2.バス	23	5.9	36	10.7
3.自家用車	85	21.9	105	31.3
4.徒歩	111	28.6	153	45.7
5.電車・JR	38	9.8	37	11.0
6.その他	1	0.3	1	0.3
合計	388	100.0	335	100.0

本学の所在する青森県弘前市は降雪地帯のため、夏期と冬期での通学のための交通手段に違いがみられる。

夏期は、自転車を使用する学生は有効回答数の3割以上（130名、33.5%）であったが、冬期には積雪のため、自転車を使用する学生（3名、0.9%）は減り、一方、徒歩による学生が3割弱（111名、28.6%）から5割近く（153名、45.7%）に増加する。また、自家用車を通学に使用する学生も少なくなく、夏期には85名（21.9%）冬期には105名（31.3%）あり、やはり冬期は積雪のため自家用車の利用が増加している。

片道に掛かる時間についても、夏期と冬期で大きく異なった。夏期では平均 26.5 分であるが、冬期には平均 34.1 分と 10 近くの違いがみられた。20 分未満は、夏期には全体の 46.5%であったが冬期には 29.5%と減少し、一方、61 分以上は、夏期には 15.8%であったが冬期には 29.0%と増加している。

表 ②④片道に掛かる時間

区分	夏期		冬期	
	基本統計量		基本統計量	
	度数	%	度数	%
	26.5 分		34.1 分	
20 分未満	112	46.5	71	29.5
21 分以上 30 分未満	40	16.6	53	22.0
31 分以上 60 分未満	51	21.2	47	19.5
61 分以上	38	15.8	70	29.0
合計	241	100.0	241	100.0

2. 課外活動について

このセクションでは、課外活動についての状況の調査を行った。

Q6 次のうち課外活動で行っていることは？（複数回答）

選択肢	度数	%
1.部活動(体育部)	55	19.0
2.部活動(文化部)	64	22.1
3.学友会役員・実行委員	39	13.5
4.ボランティア活動	31	10.7
5.その他	0	0
6.行っていない	100	34.6
合計	289	100.0

課外活動についての選択肢の中の1つあるいは複数を行っているとは回答したのは289名で有効回答数の120%である。ほとんどの学生がなんらかの課外活動に参加しているまたは複数の活動を行っていることが分かった。また、課外活動の状況の内訳は、上記のQ6の表に示した。

部活動とは、一般の大学におけるクラブおよびサークル活動にあたり、スポーツ関係の部は体育部、また音楽や華道、茶道といった文化系の部は文化部としている。体育部に所属する学生は55名（19.0%）そして文化部は64名（22.1%）であった。今回の調査では、体育部あるいは文化部の部に所属しているかどうかを単純に尋ねているだけであり、各部内で学生が複数所属しているケースも実際にあるので、実際の部活動の掛け持ち数はこれを上回ると考えられる。

学友会役員とは、学園祭や新入生歓迎会、卒業生送別会などといった大学内の行事の運営に携わる学生による組織であるが、39名（13.5%）の学生が所属していた。また、部活動や学友会活動以外の活動として、学外におけるボランティア活動は31名（10.7%）であった。調査を行った令和3年度は、前年度から全国的にまん延した新型コロナウイルス感染症の影響により、学内外の課外活動が自粛または禁止となったためボランティア活動もできない期間が多かった。

3. 経済的状況

このセクションでは、学生の経済的な状況を把握するために家庭からの支援、奨学金、アルバイトなどの状況の質問を行った。

Q7 現在の経済状況はどうですか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.ゆとりがある	12	5.0	5.0
2.ややゆとりがある	5	2.1	7.1
3.普通(あまり不自由を感じない)	148	61.4	68.5
4.やや苦しい	61	25.3	93.8
5.苦しい	15	6.2	100.0
合計	241	100.0	

現在の経済状況としては、ゆとりがあると回答した学生は12名(5.0%)で、ややゆとりがある5名(2.1%)、普通(あまり不自由を感じない)が148名(61.4%)で、一方、やや苦しい又は大変苦しいと回答している学生は76名(31.5%)であった。つまり、7割強は経済的に不自由ないと感じているが、その残りの3割強は苦しさを覚えていることが分かった。

Q8 奨学金は受けていますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.受けていない	83	34.4
2.受けている	158	65.6
合計	241	100.0

奨学金を受けていると回答した学生は158名(65.6%)と全体の半数を超えていた。Q7の回答にみられるように経済的な苦しさを覚える学生が全体の3割強を占めていることから、奨学金を貸与されていても経済的に困窮していると感じる学生も存在しているといえる。

Q9 Q8で2.と答えた人に聞きます。次の奨学金の種類で、該当する番号を書いてください。

2.受けている奨学金の内訳	度数	%
1.学生支援機構・第1種	97	40.8
2.学生支援機構・第2種	82	34.5
3.学生支援機構・給付	31	13.0
4.柴田学園みらい創生	23	9.7
5.柴田学園	0	0
6.その他	5	2.1
合計	238	100.0

奨学金を受けている学生を対象に、その奨学金の種類をたずねた。その内訳は、上記の表にあらわしてある。学生支援機構の奨学金が最も多く、第1種、第2種、給付のいずれかまたはその複数を受けているケースが238名中210名(88.2%)であった。

Q10 家庭からもらう費用の一月平均金額はいくらですか？（学費は除く）

選択肢	度数	%	累積%
もらっていない	96	39.8	39.8
1万円未満	48	19.9	59.7
1万円～2万円未満	47	19.5	79.2
2万円～4万円未満	23	9.5	88.7
4万円～6万円未満	19	7.9	96.6
6万円～8万円未満	4	1.7	98.3
8万円～10万円未満	2	0.8	99.1
10万円以上	2	0.8	100.0
合計	241	100.0	

学費を除く家庭からもらう費用の一月の平均額をみると、「もらっていない」と回答した学生が最も多く（96名、39.8%）、約4割の学生は自分で日々の生活に使うお金の工面をしていると推測される。また、2万円未満が全体の79.2%であり、全般的に家庭から金銭的支援の額は小さい。一方で、6万円以上の高額な金銭的支援を受けている学生は8名で全体の3.3%である。

Q11 アルバイトをしていますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.していない	91	37.8
2.長期休みや休日を利用して短期的に	44	18.3
3.継続的に行っている	106	44.0
合計	241	100.0

アルバイトについては、91名（37.8%）がしていないと回答した。一方、150名（62.3%）は何らかのアルバイトをしていると回答しているが、その中でも継続して行っているケースは106名（44.0%）であった。

以下のQ12～Q14では、Q11で短期または継続的にアルバイトを行っている（2.または3.を選択した）人に回答を求めた。

Q12 1ヶ月あたりの平均収入はいくらですか？

基本統計量	平均	3.3万円
区分	度数	%
もらっていない	12	8.0
1万円未満	17	11.3
1万円～2万円未満	19	12.7
2万円～4万円未満	46	30.7
4万円～6万円未満	41	27.3
6万円～8万円未満	12	8.0
8万円～10万円未満	2	1.3
10万円以上	1	0.7
合計	150	100.0

1 カ月あたりの平均収入の平均は 3.3 万円だった。それに対し、6 万円以上の高額な収入を得ている学生は 15 名 (10.0%) いた。

Q13 アルバイトはどのような目的で行っていますか？ (複数回答可)

選択肢	度数	%
3. 日常の娯楽や食料品・副食のため	95	28.5
1. 生活費や学費のため	93	27.9
2. 貯金のため	80	24.0
4. 社会勉強のため	50	15.0
6. 高価な物品(コンピュータなど)購入するため	8	2.4
5. 課外活動費のため	6	1.8
7. その他	1	0.3
合計	333	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

複数回答で、アルバイトの目的についてたずねると、「日常の娯楽や食料品・副食のため」が最も多く 95 名 (28.5%)、次に「生活費や学費のため」が 93 名 (27.9%)、順に「貯金のため」が 80 名 (24.0%)、「社会勉強」が 50 名 (15.0%) であった。

Q14 Q11 で「3. 継続的に行っている」と答えた人だけに聞きます。アルバイトは週平均、何日また何時間行っていますか？

日数			時間		
基本統計量	平均	3.3 日	基本統計量	平均	5.8 時間
区分	度数	%	区分	度数	%
1 日	9	4.6	1～2 時間	3	1.6
2 日	37	19.1	3～4 時間	53	27.7
3 日	60	30.9	5～6 時間	68	35.6
4 日	60	30.9	7～8 時間	22	11.5
5 日	25	12.9	8 時間以上	45	23.6
6 日	3	1.5	合計	191	100.0
合計	194	100.0			

Q11 で「3. 継続的に行っている」と答えた学生のアルバイトの勤務時間や日数については、週あたり平均 3.3 日、また時間にとすると平均 5.8 時間であった。

4. 修学状況

このセクションでは、本学の学生の修学状況を把握するため、入学動機、満足度、履修時間数などの項目について質問を行った。

Q15 入学動機は？（複数回答可）

選択肢	度数	%	累積%
5.自分の希望する免許・資格がとれる	168	31.3	31.3
1.地元あるいは東北地区にある大学だから	121	22.6	53.9
6.高校の先生にすすめられた	72	13.4	67.3
4.少人数制できめ細かい対応が期待できる	55	10.3	77.6
7.家族や親戚にすすめられた	48	9.0	86.6
8.自分の適性や学力に合っているから	47	8.8	95.4
9.経済的負担が少ないから	11	2.1	97.5
3.受験日程や受験科目の都合	10	1.9	99.4
8.就職率が高い	0	0	99.4
10.その他	4	0.7	100.0
合計	536	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

入学動機については、「自分の希望する資格がとれる」という回答が 168 名（31.3%）、次いで「地元あるいは東北地区にある大学だから」が 121 名（22.6%）、「高校の先生にすすめられた」72 名（13.4%）で約 7 割を占めている。そして「少人数制できめ細かい対応が期待できる」（55 名、10.3%）、また「自分の適性や学力に合っているから」（47 名、8.8%）と続いている。つまり、免許や資格といった実利的な理由と共に、学生本人が地元の大学を志向することや地元の高校の先生がすすめることも主な理由になっていることがうかがわれる。

Q16 所属している学科の満足度は？（該当する番号 1 つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	44	18.3	20	17.6	24	18.9
2.やや満足している	71	29.5	34	29.8	37	29.1
3 特に問題はない	83	34.4	34	29.8	49	38.6
4.やや不満である	39	16.2	23	20.2	16	12.6
5.不満である	4	1.6	3	2.6	1	0.8
合計	241	100.0	114	100.0	127	100.0

全学科の所属している学科の満足度の集計結果は、「満足している」が 44 名（18.3%）、「やや満足している」が 71 名（29.5%）であり、「特に問題はない」83 名（34.4%）であった。このように所属している学科に対し、「満足している」「やや満足している」「特に問題はない」とする回答を合わせた割合は全体の 82.2%であった。一方、「やや不満である」が 39 名（16.2%）、「不満である」が 4 名（1.6%）いた。今回の結果から、学生の在籍に大きな問題はないが、満足度をあげていくための対策は必要であろう。また、「やや不満」「不満」と感じている学生も全体の 17.8%

存在するためこれらの学生の対応も随時必要であることがいえる。

学科別の満足度をみたところ、健康栄養学科とこども発達学科において若干の差が見られた。「満足している」「やや満足している」「特に問題はない」とする肯定的な回答の割合は、健康栄養学科 77.2%、こども発達学科 86.6%と特に問題はない。「やや不満」「不満」とする回答を合わせた割合は、健康栄養学科 22.8%、こども発達学科 13.4%で、何かしらの不満を感じている学生がいることから、詳細を調べ問題解決する必要性がある。

選択肢	1学年		2学年		3学年		4学年	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1.満足している	15	22.7	10	16.4	7	11.1	12	23.5
2.やや満足している	24	36.4	21	34.4	11	17.5	15	29.4
3.特に問題はない	22	33.3	20	32.8	29	46.0	12	23.5
4.やや不満である	5	7.6	10	16.4	15	23.8	9	17.6
5.不満である	0	0	0	0	1	1.6	3	5.9
合計	66	100.0	61	100.0	63	100.0	51	100.0

学年別の満足度をみた場合、学年に差がみられた。まず、「満足している」「やや満足している」「特に問題ない」と肯定的な回答の割合は、1学年が92.4%、2学年が83.6%に対し、3学年が74.6%、4学年が76.4%と差がみられた。3、4学年の学生は「やや不満である」「不満である」という回答（28名,24.6%）が2割を超え、大きな問題はないものの1、2学年など下学年の学生（15名,11.8%）との差がみられた。

Q17 現在興味を持っている授業科目はどの程度ありますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.ほぼすべて	24	10.0	11	9.6	13	10.2
2.7割程度	86	35.7	44	38.6	42	33.1
3.5割程度	87	36.1	39	34.2	48	37.8
4.3割程度	29	12.0	9	7.9	20	15.7
5.ほとんどない	15	6.2	11	9.6	4	3.1
合計	241	100.0	114	100.0	127	100.0

授業科目に対する興味については、「ほぼすべて」が24名（10.0%）、「7割程度」が86名（35.7%）、「5割程度」が87名（36.1%）であり、興味が持てる科目が半分以上と回答する割合は8割強（81.8%）であった。一方、「3割程度」が29名（12.0%）、「ほとんどない」が15名（6.2%）であり、この授業科目に対する否定的な回答を合わせると全体の2割弱（18.2%）であった。

学科別の授業科目に対する興味をみたところ、健康栄養学科とこども発達学科において大きな差は見られない。

Q18 大学に来校する週あたりの日数は何日ですか？（該当する番号1つ記入）

大学に来校する週あたりの日数は、5日以上が168名（69.7%）と全体の約7割を占めている。つまり、土曜日、日曜日を除くほぼ毎日、大学に通う学生が約7割である。

日数	度数	%	累積%
2 日以下	29	12.0	12.0
3 日	20	8.3	20.3
4 日	24	10.0	30.3
5 日以上	168	69.7	100.0
合計	241	100.0	

Q19 1週間に履修しているコマ数はどれくらいですか？（1コマ90分としてカウント）

基本統計量	平均 15.0 コマ		平均 14.2 コマ		平均 15.7 コマ	
	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
区分	度数	%	度数	%	度数	%
1. 11 コマ以下	73	30.3	40	35.1	33	26.0
2. 12～16 コマ	62	25.7	36	31.6	26	20.5
3. 17～21 コマ	92	38.2	32	28.1	60	47.2
4. 22 コマ以上	14	5.8	6	5.3	8	6.3
合計	241	100.0	114	100.0	127	100.0

1週間に履修しているコマ数（1コマ90分として）は、平均 15.0 コマであった。度数分布表に表した結果、17～21 コマが 92 名（38.2%）と最も多く、全体の 4 割弱であった。

学科別の履修しているコマ数を比較すると、健康栄養学科は平均 14.2 コマであったが、こども発達学科は平均 15.7 コマであった。こども発達学科は複数の免許・資格を修得する学生の割合が多いことが理由として考えられる。

Q20 15回の授業の出席率は平均的に考えてどれくらいですか？（該当する番号1つ記入）

授業の出席率については、「100%（全く欠席をしたことがない）」が全体の 4 割弱（89 名、36.9%）で、「90%ぐらい（15 回中の欠席 1～2 回）」は 129 名（53.5%）、「80%ぐらい（欠席 3 回）」は 20 名（8.3%）であった。つまり、80%以上の出席をし、学期末試験の受験に問題がない学生は 98.7% であり、本学の学生の出席率の良さを表している。しかし、一方で、学期末試験の受験に支障をきたす欠席をしたという回答では、「70%ぐらい（欠席 4～5 回）」と「60%以下（欠席 5 回以上）」と回答したのは 3 名（1.2%）であった。

選択肢	度数	%	累積%
100%（欠席なし）	89	36.9	36.9
90%ぐらい（欠席 1～2 回）	129	53.5	90.4
80%ぐらい（欠席 3 回）	20	8.3	98.7
70%ぐらい（欠席 4～5 回）	1	0.4	99.1
60%ぐらい（欠席 5 回以上）	2	0.8	100.0
合計	241	100.0	

Q21 授業を欠席する主な理由は何ですか？（該当する番号1つ記入）

授業を欠席する主な理由としては、「病気・体調不良・ケガ」117 名（70.9%）と最も多く、次いで順に、「朝寝坊」16 名（9.7%）、「就職活動・課外活動」6 名（3.6%）であった。上位の理由は、病気や朝寝坊など体調に関わるものであった。

選択肢	度数	%	累積%
1. 病気・体調不良・ケガ	117	70.9	70.9
2. 朝寝坊	16	9.7	80.6
4. 就職活動・課外活動	6	3.6	84.2
3. 授業が理解できないのでやる気がでない	3	1.8	86.0
5. その他	23	13.9	100.0
合計	165	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

Q22 カリキュラム・時間割についてどう感じますか？（複数回答可）

選択肢	度数	%	累積%
1. 特に不満はない	135	48.0	48.0
3. 履修すべき科目が多い	89	31.7	79.7
2. 選択科目の種類が少ない	20	7.1	86.8
5. 他大学の授業もとりたい	18	6.4	93.2
4. 他学科の授業もとりたい	14	5.0	98.2
6. その他	5	1.8	100.0
合計	281	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

カリキュラム・時間割についてどう感じるかは、「特に不満はない」135名（48.0%）が最も多く、次いで、「履修すべき科目が多い」89名（31.7%）が多かった。Q17やQ18の時間的な厳しさを映し出すように、学生自身も心理的に多忙さを感じていることが明らかになった。一方、「選択科目の種類が少ない」「他大学、他学科の授業もとりたい」など科目の履修に意欲的な学生が2割弱（52名、18.5%）いる。今後、カリキュラムや履修規定などの改善が必要であろう。

Q23 受講科目を平均的にみて、授業の内容は理解できていますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1. ほぼできている	54	22.4	22.4
2. まあまあできている	173	71.8	94.2
3. あまりできていない	13	5.4	99.6
4. ほとんどできていない	1	0.4	100.0
合計	241	100.0	

授業の内容は理解できているかについて、「ほぼできている」が54名（22.4%）、「まあまあできている」が173名（71.8%）であり、従って理解ができているとする学生は全体の9割以上であった。それに対して、授業が理解できていない学生は、全体の1割弱（「あまりできていない」は13名（5.4%）、「ほとんどできていない」は1名（0.4%））であった。

Q24 Q23の質問で「3.あまりできていない」「4.ほとんどできていない」と答えた人のみに聞きます。その理由はどれですか？（複数回答）

Q23の質問で「3.あまりできていない」「4.ほとんどできていない」と答えた学生で、その理由として最も多かったのは、「履修すべき単位数が多すぎる」（8名、33.3%）、次いで順に「勉強の

仕方が分からない」(7名、29.2%)、「高校までの知識が不十分」(5名、20.8%)、「授業内容が高度すぎて理解できない」(3名、12.5%)であった。

授業が理解できていないという学生は Q23 の結果のように全体の 1 割弱で、「履修すべき単位数が多すぎる」といったように授業を理解できない学生にとって、履修科目を増やすことはマイナスに働くことから履修指導をする必要があるだろう。元々の基礎学力などの問題が推測されるが、大多数の学生と同じような指導では十分に理解できない学生が存在することが考えられ、特別な対応が必要であろう。

選択肢	度数	%	累積%
1.履修すべき単位数が多すぎる	8	33.3	33.3
3.勉強の仕方がわからない	7	29.2	62.5
5.高校までの知識が不十分	5	20.8	83.3
2.授業内容が高度すぎて理解できない	3	12.5	95.8
4.授業方法や教員の指導・アドバイスが不十分である	1	4.2	100.0
6.その他	0	0	100.0
合計	24	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

Q25 授業内容が分からなかった時どうしていますか？(複数回答)

選択肢	度数	%
2.友達に聞く	206	40.4
1.自分でなんとか調べる	164	32.1
3.担当教員に質問する	105	20.6
5.学校以外の誰かに聞く	14	2.7
6.何もしない	14	2.7
4.学校外の誰かに聞く	7	1.4
合計	510	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

授業内容が分からなかった時どうするかを複数回答で求めたところ、「友達に聞く」が最も多く、約 4 割 (206 名、40.4%) が該当し、次いで「自分でなんとか調べる」が 164 名 (32.1%) であり、学生側で解決する回答が多かった。それに対して、「担当教員に質問する」は 105 名 (20.6%) と減り、「何もしない」学生も 14 名 (2.7%) いた。

Q26 授業の取り組みはどうですか？(該当する番号 1 つ記入)

選択肢	度数	%	累積%
1.熱心に取り組んでいる	73	30.3	30.3
2.まあまあ熱心に取り組んでいる	148	61.4	91.7
3.あまり熱心に取り組んでいない	19	7.9	99.6
4.熱心に取り組んでいない	1	0.4	100.0
合計	241	100.0	

授業の取り組みについては、「熱心に取り組んでいる」「まあまあ熱心に取り組んでいる」という学生は全体の 9 割強 (221 名、91.7%) で大多数であるが、その一方で、残りの 1 割弱の学生は

あまりまたは熱心に取り組んでいないと回答（20名、8.3%）した。

Q27 授業時間外に友人と授業の内容について話し合いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1. 日常的にしている	61	25.3	25.3
2. 時々している	157	65.1	90.4
3. ほとんどしていない	20	8.3	98.7
4. 全くしていない	3	1.2	100.0
合計	241	100.0	

授業時間外に友人と授業の内容について話し合うかについては、「日常的にしている」「時々している」という学生は全体の約9割（218名、90.4%）であるが、その一方で、約1割の学生はほとんどまたは全くしていないと回答（23名、9.5%）した。

Q28 1日平均の自習時間（授業以外の学習の時間）はどれくらいですか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	健康栄養学科		こども発達学科		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
1. 30分未満	16	14.0	49	38.6	65	27.0
2. 30分～1時間未満	47	41.2	55	43.3	102	42.3
3. 2時間未満	32	28.1	16	12.6	48	19.9
4. 3時間未満	9	7.9	4	3.1	13	5.4
5. 3時間以上	10	8.8	3	2.4	13	5.4
合計	114	100.0	127	100.0	241	100.0

1日平均の自習時間であるが、1時間未満の学生が全体の約7割（167名、69.3%）で、一方で、1時間以上は74名（30.7%）と約3割、そのうち3時間以上の学生はわずか13名（5.4%）であった。

また、自習時間が1時間未満の学生は健康栄養学科で5割強（63名、55.3%）、こども発達学科で8割強（104名、81.9%）でありと、学科間で差がみられた。

自習時間の少なさそのものも問題であるが、上記のQ19やQ22の結果から分かるような学生の時間割の過密スケジュールから考えれば、予習復習時間の確保が困難であることも要因の一つであり、カリキュラムや履修上の問題も大きいと考えられる。

Q29 大学での授業や勉強は、将来の進路に役立つと思いますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	1学年		2学年		3学年		4学年		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1. 役立つ	56	84.8	37	60.7	34	54.0	29	57.0	156	64.7
2. まあまあ役立つ	7	10.6	23	37.7	19	30.1	20	39.2	69	28.6
3. あまり役に立たない科目もある	3	4.6	1	1.6	10	15.9	1	1.9	15	6.2
4. 役に立たない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.9	1	0.4
合計	66	100.0	61	100.0	63	100.0	51	100.0	241	100.0

大学での授業や勉強は将来の進路に役立つと思うかどうかであるが、「役に立つ」「まあまあ役

に立つ」という肯定的な意見は全体の9割以上（225名、93.3%）であった。しかし、一方で、「あまり役に立たない」「役に立たない」と否定的な意見（16名、6.6%）も少数ながらいる。学年別に見てみると、否定的な意見は3学年に強くみられる。

Q30 オフィスアワーを利用していますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. 利用している	18	7.5
2. あまり利用しない	76	31.5
3. 利用したことがない	147	61.0
合計	241	100.0

利用しているは18名(7.5%)、あまり利用しない、利用したことがないが223名(92.5%)で、利用していない学生が多い。

Q31 Q30において、「1. 利用している」を選択した人のみに聞きます。主な相談内容を選んで下さい。（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. 勉強に関すること	9	50.0
2. 将来の進路	4	22.2
3. 人間関係	1	5.6
4. 雑談	3	16.7
5. その他	1	5.6
合計	18	100.0

勉強と進路相談に関するものが13名（72.2%）である。

Q32 Q30において、「2. あまり利用しない」あるいは「3. 利用したことがない」を選択した人に聞きます。その主な理由を選んで下さい。（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1. 教員が不在の場合が多い	23	10.3
2. 自分の授業と重なる	43	19.3
3. 忙しくて利用できない	65	29.1
4. オフィスアワーの必要性を感じない	67	30.0
5. その他	25	11.2
合計	223	100.0

オフィスアワーについて必要性を感じない学生が67名（30.0%）、授業や忙しくて時間がない学生が5割弱（108名、48.4%）いる。

Q33 オフィスアワー以外で、質問や悩みを解決するためにどうしていますか？（複数回答可）

質問や悩みを解決する方法として、「友人や親などに相談する」が189名（46.8%）で最も多く、次いで「自分で解決する」が112名（27.7%）、「休み時間に教職員に相談する」が78名（19.3%）と、何かしらの方法で解決している。一方、何もしない学生が24名（5.9%）いることから、悩みを抱える学生に対して様々な解決方法があることを紹介するなど方策を考える必要がある。

選択肢	度数	%
1. 休み時間に教職員に相談する	78	19.3
2. 友人や親などに相談する	189	46.8
3. 自分で解決する	112	27.7
4. 何もしない	24	5.9
5. その他	1	0.2
合計	404	100.0

Q34 学びの現状や成果について伺います。(①～⑦)

①思い通りに勉強ができていますか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%	累積%
1.かなりある	13	5.4	5.4
2.ややある	97	40.2	45.6
3.どちらでもない	82	34.0	79.6
4.あまりない	44	18.3	97.9
5.全くない	5	2.1	100.0
合計	241	100.0	

思い通りに勉強ができていますか？について、「かなりある」が13名(5.4%)、「ややある」が97名(40.2%)であり、実感がある学生は全体の5割弱であった。それに対して、実感がない学生は全体の2割(「あまりない」は44名(18.3%)、「全くない」は5名(2.1%)であった。

②物事を分析する力はあるか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%	累積%
1.とてもついた	21	8.7	8.7
2.ややついた	146	60.6	69.3
3.どちらでもない	59	24.5	93.8
4.あまりついていない	14	5.8	99.6
5.全くついていない	1	0.4	100.0
合計	241	100.0	

物事を分析する力はあるか？について、「とてもついた」が21名(8.7%)、「ややついた」が146名(60.6%)であり、分析する力がついたと答えた学生は全体の7割弱であった。それに対して分析力がついていない、まったくついていない学生は1割弱(15名、6%)であった。

③問題を解決する力はあるか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%	累積%
1.とてもついた	25	10.4	10.4
2.ややついた	149	61.8	72.2
3.どちらでもない	52	21.6	93.8
4.あまりついていない	15	6.2	100.0
5.全くついていない	0	0.0	100.0
合計	241	100.0	

問題を解決する力がついているかについて、「とてもついた」「ややついた」「かなりある」が13名(5.4%)、「ややある」が97名(40.2%)であり、実感がある学生は全体の5割弱であった。それに対して、実感がない学生は全体の約2割(あまりない(44名、(18.3%))、全くない(5名、(2.1%))であった。

④自分の専門分野に関する理解力についていますか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%	累積%
1.とてもついた	39	16.2	16.2
2.ややついた	164	68.0	84.2
3.どちらでもない	26	10.8	95.0
4.あまりついていない	12	5.0	100.0
5.全くついていない	0	0.0	100.0
合計	241	100.0	

自分の専門分野に関する理解力について、「とてもついた」が39名(16.2%)、「ややついた」が164名(68.0%)であり、全体の8割以上が専門分野の理解が深まったと実感していた。それに対して、「あまりついていない」が12名(5.0%)で、これらの学生に対して個別の支援が必要である。「全くついていない」は0名だった。

⑤異文化や多様性に関する知識や理解は増えましたか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%	累積%
1.とても増えた	41	17.0	17.0
2.やや増えた	126	52.3	69.3
3.どちらでもない	49	20.3	89.6
4.あまり増えていない	19	7.9	97.5
5.全く増えていない	6	2.5	100.0
合計	241	100.0	

異文化や多様性に関する知識や理解は増えたかについて、「とても増えた」が41名(17.0%)、「やや増えた」が126名(52.3%)であり、増えたと答えた学生は全体の約7割弱であった。それに対して、「あまり増えていない」19名(7.9%)、「全く増えていない」6名(2.5%)であった。

⑥リーダーシップ力がついてますか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	全体		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.とてもついた	18	7.5	2	1.8	16	12.6
2.ややついた	101	41.9	42	36.8	59	46.5
3.どちらでもない	73	30.3	35	30.7	38	29.9
4.あまりついていない	38	15.8	28	24.6	10	7.9
5.全くついていない	11	4.6	7	6.1	4	3.1
合計	241	100.0	114	100.0	127	100.0

リーダーシップ力がついたかについて、「とてもついた」が18名(7.5%)、「ややついた」が101名(41.9%)であり、ついたと実感がある学生は全体の5割弱であった。それに対して、「あまり

ついていない」が 38 名 (15.8%)、「全くついていない」が 11 名 (4.6%) であった。

学科別にみると、「とてもついた」「ややついた」とする回答は健康栄養学科で 38.6%、こども発達学科で 59.1%だった。一方「あまりついていない」「全くついていない」では健康栄養学科で 30.7%、こども発達学科で 11.0%と学科で差が見られた。

⑦地域社会が抱えている問題への関心や理解は増えましたか？（該当する番号 1 つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.とても増えた	39	16.2	16.2
2.やや増えた	148	61.4	77.6
3.どちらでもない	46	19.1	96.7
4.あまり増えていない	5	2.1	98.8
5.全く増えていない	3	1.2	100.0
合計	241	100.0	

地域社会が抱えている問題への関心や理解は増えたかについて、「とても増えた」が 39 名 (16.2%)、「やや増えた」が 148 名 (61.4%) であり、実感がある学生は全体の 7 割弱であった。それに対して、増えていないと答えた学生は全体の 3.3% (8 名) であった。大学の授業や日常生活を通して、地域社会に関する関心や理解が深まっていることがうかがえる。

5. 大学施設について

このセクションでは大学施設についての状況を把握するために、図書館、コンピュータ室等についての質問を行った。

Q35 図書館は、どれくらい利用しますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.よく利用する	44	18.3	18.3
2.ときどき利用する	188	78.1	96.4
3.利用したことがない	9	3.7	100.0
合計	241	100.0	

図書館の利用についてであるが、「よく利用する」「ときどき利用する」と、利用したことがある学生は、全体の9割強（232名、96.4%）であったが、そのうち「よく利用する」とする学生は全体の2割弱（44名、18.3%）であった。一方、「全く利用したことがない」という回答は14名（4.0%）であった。

Q36 図書館の利用に関する希望はありますか？（複数回答可）

選択肢	合計		健康栄養学科		こども発達学科	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.特にない	131	44.0	71	53.4	60	36.4
2.開館時間を延長してほしい	45	15.1	18	13.5	27	16.4
3.学業に必要な図書を増やしてほしい	51	17.1	15	11.3	36	21.8
4.図書の配置を分かりやすいようにしてほしい	25	8.4	11	8.3	14	8.5
5.学業以外の図書を増やしてほしい	41	13.8	18	13.5	23	13.9
6.その他	5	1.7	0	0	5	3.0
合計	298	100.0	133	100.0	165	100.0

図書館を利用したことがある学生に、希望を複数回答で聞いたところ、「特にない」（131名、44.0%）が5割弱であった。次いで「学業に必要な図書を増やしてほしい」（51名、17.1%）、「開館時間を延長してほしい」（45名15.1%）、「学業以外の図書を増やしてほしい」（41名、13.8%）、「図書の配置を分かりやすいようにしてほしい」（25名、8.4%）であった。

また、学科別に見ると、こども発達学科で「学業に必要な図書を増やしてほしい」（36名、21.8%）が2割を超え、健康栄養学科（15名、11.3%）と差が見られた。

平成20年度より図書館の利用時間の延長が行われるなど対応が進められている。しかし、授業に関係した専門図書の購入や開館時刻を早めるなど、図書館の使いやすさについての問題はあるため今後学生のニーズに添った検討の必要があるだろう。

Q37 授業以外で、コンピュータ室を利用しますか。（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.よく利用する	59	24.5
2.ときどき利用する	102	42.3
3.ほとんど利用しない	80	33.2
合計	241	100.0

授業以外のコンピュータの利用については、「よく利用する」または「ときどき利用する」という利用している学生は全体の6割以上（161名、66.8%）であった。それに対し「ほとんど利用しない」と回答したのは80名（33.2%）であった。

Q38 Q37で「よく利用する」または「ときどき利用する」と答えた人に聞きます。コンピュータ室の利用目的は何ですか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.課題やレポートの作成	157	73.4
3.インターネットでの情報検索	35	16.4
4.電子メールの送受信	20	9.3
2.SNSなどの閲覧や書き込み	2	0.9
5.その他	0	0
合計	214	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

コンピュータ室の利用目的について複数回答で聞いたところ、「課題やレポートの作成」が7割強（157名、73.4%）と最も多く、次いで「インターネットでの情報検索」（35名、16.4%）、「電子メールの送受信」（20名、9.3%）、「SNSなどの閲覧や書き込みのため」（2名、0.9%）であった。

Q39 Q37で「よく利用する」または「ときどき利用する」と答えた人に聞きます。コンピュータ室の利用に関する希望はありますか。（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.特にない	110	36.8
4.トラブルに対応してくれる人がいてほしい	89	29.8
3.PCのソフトを増やしてほしい	30	10.0
2.利用時間を増やしてほしい	26	8.7
5.その他	44	14.7
合計	299	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

学生のコンピュータ室の利用に関する希望を複数回答で聞いたところ、「特にない」が最も多く（110名、36.8%）、順次「トラブルに対応してくれる人がいてほしい」（89名、29.8%）「PCのソフトを増やしてほしい」（30名、10.0%）、「利用時間を増やしてほしい」（26名、8.7%）で、「その他」の自由記述は、「OSが古い」「使用できないPCが多い」「印刷機を使いやすくしてほしい」などの要望（44件、14.7%）があった。現在、本学にはコンピュータ室が2室あるが、特に問題ない学生を除いた6割以上の学生が（189名、63.2%）コンピュータ室の使用に不便を感じていることがうかがえる。今後検討が必要である。

Q40 講義室の設備や使用感はどうですか？（該当する番号1つ記入）

講義室の設備や使用感についてであるが、「満足」「やや満足」と、肯定的な回答は全体の6割（147名、60.9%）であった。一方、「やや不満」「不満」は1割強（32名、13.2%）であった。

選択肢	度数	%	累積%
1.満足	50	20.7	20.7
2.やや満足	97	40.2	60.9
3.どちらでもない	62	25.7	86.6
4.やや不満	23	9.5	96.1
5.不満	9	3.7	100.0
合計	241	100.0	

Q41 実験・実習室の設備や使用感はどうですか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.満足	62	25.7	25.7
2.やや満足	83	34.4	60.1
3.どちらでもない	87	36.1	96.2
4.やや不満	7	2.9	99.1
5.不満	2	0.8	100.0
合計	241	100.0	

実験・実習室の設備や使用感についてであるが、「満足」「やや満足」と答えた人は全体の6割（145名、60.1%）であった。一方、「やや不満」「不満」の否定的な回答は3.7%と多くなかった。

Q42 学内の雰囲気や居心地はどうですか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.満足	50	20.7	20.7
2.やや満足	90	37.3	58.0
3.どちらでもない	74	30.7	88.7
4.やや不満	21	8.7	97.4
5.不満	6	2.5	100.0
合計	241	100.0	

学内の雰囲気や居心地についてであるが、「満足」「やや満足」と、肯定的な回答は全体の6割弱（140名、60.7%）であった。一方、「やや不満」「不満」は1割強（27名、11.2%）であった。

6. 進路希望について

このセクションでは、学生の進路希望の状況について把握するために、希望業種や職種、地域などの質問を行った。

Q43 大学卒業後の志望進路は何ですか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.就職を希望	214	88.8	88.8
2.進学を希望	8	3.3	92.1
3.未定	19	7.9	100.0
合計	241	100.0	

卒業後の進路希望については、全体の9割弱（214名、88.8%）は「就職を希望」しており、「進学を希望」は8名（3.3%）、「未定」は19名（7.9%）であった。

Q44 「1.就職を希望」とする人は、①～③の質問にお答えください。

Q43 では、就職を希望する学生を対象に、希望職種、希望業種、希望地域についてたずねた。また、希望職種と希望業種については、健康栄養学科とこども発達学科では志望の傾向に大きな差がみられるため、学科別に集計を行った。

① 希望する職種は何ですか？ 第1希望と第2希望を番号で教えてください。

希望する職種を第1希望から第2希望まで、Q41で「就職を希望する」と回答した学生についてたずね、学科別に集計を行った。

表 健康栄養学科の希望職種

選択肢	第1希望		第2希望		第1及び2希望合算	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.教職(幼稚園)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.教職(小学校)	0	0.0	2	1.9	2	1.0
3.教職(中学校、高等学校)	8	7.8	2	1.9	10	4.9
4.教職(栄養教諭)	1	1.0	16	15.5	17	8.3
5.教職(特別支援学校)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6.保育士	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.保育教諭	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8.管理栄養士・栄養士	87	84.5	20	19.4	107	51.9
9.事務職	3	2.9	10	9.7	13	6.3
10.営業職	1	1.0	1	1.0	2	1.0
11.接客業(販売・サービス)	0	0.0	6	5.8	6	2.9
12.その他の職種	1	1.0	4	3.9	5	2.4
13.未定	2	1.9	13	12.6	15	7.3
14.第2希望なし	0	0.0	29	28.2	29	14.1
合計	103	100.0	103	100.0	206	100.0

表 こども発達学科の希望職種

選択肢	第1希望		第2希望		第1及び2希望合算	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.教職(幼稚園)	11	9.9	22	19.8	33	14.9
2.教職(小学校)	49	44.1	6	5.4	55	24.8
3.教職(中学校、高等学校)	1	0.9	0	0.0	1	0.5
4.教職(栄養教諭)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5.教職(特別支援学校)	3	2.7	0	0.0	3	1.4
6.保育士	16	14.4	9	8.1	25	11.3
7.保育教諭	7	6.3	15	13.5	22	9.9
8.管理栄養士・栄養士	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9.事務職	7	6.3	4	3.6	11	5.0
10.営業職	0	0.0	1	0.9	1	0.5
11.接客業(販売・サービス)	2	1.8	7	6.3	9	4.1
12.その他の職種	7	6.3	3	2.7	10	4.5
13.未定	8	7.2	12	10.8	20	9.0
14.第2希望なし	0	0.0	32	28.8	32	14.4
合計	111	100.0	111	100.0	222	100.0

まずは、健康栄養学科の集計結果である。第1希望では「管理栄養士及び栄養士」が8割を超えた(87名、84.5%)。次いで「教職(中学校、高等学校)」(8名、7.8%)だった。

次に、こども発達学科の集計結果である。第1希望では「教職(小学校)」が4割以上で(49名、44.1%)、次いで「保育士」(16名、14.4%)、「教職(幼稚園)」(11名、9.9%)、「保育教諭」(7名、6.3%)、「事務職」(7名、6.3%)と続いた。

② 希望する業種は何ですか？ 第1希望と第2希望を番号で教えてください。

希望業種について希望職種と同様に第1希望から第2希望まで回答を求めた。

健康栄養学科の集計結果である。最も多かったのは「医療・福祉業(病院、診療所など)」42名(40.8%)で、次いで「医療・福祉業(保育所、特養老人ホーム、介護老健施設など)」22名(21.4%)、「教育・学習支援業(小学校、中学校、高校、幼稚園、幼保連携型認定こども園など)」14名(13.6%)、公務員(都道府県職員、市町村職員、警察官など)14名(13.6%)で、全体の約9割(92名、89.4%)であった。これらの業種に希望が集中したのは、先の①の希望職種から分かるように、健康栄養学科に在籍する学生の半数以上が管理栄養士職を志望しており、「医療・福祉業」で働くことを希望しているからである。

こども発達学科の集計結果である。最も多かったのは「教育・学習支援業(小学校、中学校、高校、幼稚園、幼保連携型認定こども園など)」58名(52.3%)で、次いで、「医療・福祉業(保育所、特養老人ホーム、介護老健施設など)」12名(10.8%)で、これらを合わせると学科全体の6割以上(70名、63.1%)であった。これらの業種に集中したのも、やはり先の①の希望職種から分かるように、こども発達学科に在籍する学生の大半が小学校か幼稚園の教諭と保育士、保育教諭を志望しているためである。

表 健康栄養学科の希望業種

選択肢	第1希望		第2希望		第1及び 2希望合算	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.製造(メーカー)	3	2.9	7	6.8	9	11.0
2.販売業・小売業(各種販売店やスーパーなど)	0	0.0	3	2.9	4	4.9
3.金融業・保険業(銀行や保険会社など)	0	0.0	1	1.0	0	0.0
4.飲食店・宿泊業(レストランやホテルなど)	0	0.0	2	1.9	1	1.2
5.情報通信業(電話会社、新聞、出版、テレビ、ラジオなど)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6.医療・福祉業(病院、診療所など)	42	40.8	14	13.6	21	25.6
7.医療・福祉業(保育所、特養老人ホーム、介護老健施設など)	22	21.4	19	18.4	10	12.2
8.教育・学習支援業(小学校、中学校、高校、幼稚園、幼保連携型認定こども園など)	14	13.6	14	13.6	10	12.2
9.教育・学習支援業(学習塾、教育支援施設など)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10.公務員(都道府県職員、市町村職員、警察官など)	14	13.6	5	4.9	27	32.9
11.その他の業種	3	2.9	4	3.9	0	0.0
12.未定	5	4.9	10	9.7	0	0.0
13.第2希望なし	0	0.0	24	23.3	0	0.0
合計	103	100.0	103	100.0	82	100.0

表 こども発達学科の希望業種

選択肢	第1希望		第2希望		第1及び 2希望合算	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.製造(メーカー)	2	1.8	0	0.0	9	11.0
2.販売業・小売業(各種販売店やスーパーなど)	3	2.7	3	2.7	4	4.9
3.金融業・保険業(銀行や保険会社など)	1	0.9	0	0.0	0	0.0
4.飲食店・宿泊業(レストランやホテルなど)	1	0.9	2	1.8	1	1.2
5.情報通信業(電話会社、新聞、出版、テレビ、ラジオなど)	1	0.9	0	0.0	0	0.0
6.医療・福祉業(病院、診療所など)	1	0.9	0	0.0	21	25.6
7.医療・福祉業(保育所、特養老人ホーム、介護老健施設など)	12	10.8	7	6.3	10	12.2
8.教育・学習支援業(小学校、中学校、高校、幼稚園、幼保連携型認定こども園など)	58	52.3	26	23.4	10	12.2
9.教育・学習支援業(学習塾、教育支援施設など)	6	5.4	7	6.3	0	0.0
10.公務員(都道府県職員、市町村職員、警察官など)	4	3.6	9	8.1	27	32.9
11.その他の業種	2	1.8	2	1.8	0	0.0
12.未定	20	18.0	19	17.1	0	0.0
13.第2希望なし	0	0.0	36	32.4	0	0.0
合計	111	100.0	111	100.0	82	100.0

以上より、健康栄養学科、こども発達学科それぞれの学科で取得できる資格や免許(健康栄養学科は管理栄養士、栄養教諭、中高教諭。こども発達学科は、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士)

を利用した就職の希望がみられた。このような資格を利用した就職の学生への支援は、長年の本学の教員による経験の蓄積があり、今後もそれを活かし就職支援を行うことができるだろう。

しかし、一方で少数ではあるがこれら資格を利用しない就職（「製造」「販売業・小売業」「金融業・保険業」など）は、健康栄養学科、こども発達学科でも、1 から 2 割強の学生が第 1 希望か第 2 希望に選んでいる現状もあるため、これらの少数派の学生への支援も見落としとしてはいけないだろう。

③ 就職を希望する都道府県または地域はどこですか？第 1 希望と第 2 希望を教えてください。

就職を希望する地域について第 1 希望から第 2 希望までたずねたところ、最も多かったのは青森であり、第 1 希望は全体の半数以上（116 名、54.2%）、第 2 希望は約 2 割（45 名、21.0%）が選んでいた。さらに、第 1 希望に、青森から福島までの東北 6 県または東北地方を希望している学生は 153 名（71.5%）である。つまり、地元または近隣の県での就職を望む学生が非常に多い結果となった。

選択肢	第 1 希望		第 2 希望		第 1 及び 2 希望合算	
	度数	%	度数	%	度数	%
1.北海道	2	0.9	0	0.0	16	2.4
2.青森	116	54.2	45	21.0	213	32.4
3.秋田	9	4.2	4	1.9	24	3.6
4.岩手	4	1.9	6	2.8	25	3.8
5.山形	1	0.5	0	0.0	2	0.3
6.宮城	7	3.3	8	3.7	44	6.7
7.福島	0	0.0	0	0.0	1	0.2
8.東京	2	0.9	0	0.0	26	4.0
9.神奈川	7	3.3	4	1.9	50	7.6
10.千葉	4	1.9	1	0.5	34	5.2
11.埼玉	1	0.5	3	1.4	16	2.4
12.新潟	1	0.5	0	0.0	1	0.2
13.東北地方であればよい	16	7.5	32	15.0	3	0.5
14.関東地方であればよい	29	13.6	13	6.1	1	0.2
15.関西地方であればよい	0	0.0	1	0.5	0	0.0
16.その他	2	0.9	2	0.9	88	13.4
17.未定	13	6.1	39	18.2	54	8.2
18.第 2 希望なし	0	0.0	56	26.2	3	0.5
合計	214	100.0	214	100.0	658	100.0

Q45 就職や進路は誰に相談しますか。（複数回答可）

就職や進路は誰に相談するかたずねたところ、「家族」177 名（31.1%）が最も多く 3 割以上で、次いで「友人」149 名（26.1%）、「クラス主任」93 名（16.3%）、「卒業研究指導教員」69 名（12.1%）と続いている。4 割弱の学生（219 名、38.4%）が学内の教員に相談していると答えた。

一方、2割以上が誰にも相談しないと答えたが、この学生たちが自分で解決しているのか或いは誰にも相談できずにいるのか不明であるが、学内の相談体制を周知していく必要があるだろう。

選択肢	度数	%	累積%
7.家族	177	31.1	31.1
8.友人	149	26.1	57.2
1.クラス主任	93	16.3	73.5
2.卒業研究指導教員	69	12.1	85.6
4.受験対策担当教員	21	3.7	89.3
6.上記以外の学内教員	17	3.0	92.3
3.学生課・職種別担当教員	13	2.3	94.6
9.ハローワークなどの就職支援施設	11	1.9	96.5
5.学生支援室	6	1.1	97.6
10.相談しない	14	2.5	100.0
11.その他	0	0.0	100.0
合計	570	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

Q46 3年生と4年生のみ答えてください。進路選択を考える上で、情報入手の手段は何ですか？
(複数回答可)

進路選択を考える上での情報入手手段は、「インターネット」が最も多く(98名、26.8%)を占めた。次いで、順に「大学(就職資料室)の掲示物や資料、各種ガイダンス」71名(19.5%)、「各種説明会(企業、教育委員会、病院、幼稚園、保育所等)」(64名、17.5%)であった。

選択肢	度数	%
1.インターネット	98	26.8
2.大学(就職資料室)の掲示物や資料、各種ガイダンス	71	19.5
3.各種説明会(企業、教育委員会、病院、幼稚園、保育所等)	64	17.5
8.教員	43	11.8
6.友人	40	11.0
7.家族	33	9.0
4.新聞や就職情報誌	10	2.7
5.テレビやラジオ	2	0.5
9.その他	4	1.1
合計	365	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

Q47 就職資料室を利用したことがありますか？

選択肢	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1.ある	3	4.5	20	32.8	25	39.7	50	98.0	98	40.7
2.ない	63	95.5	41	67.2	38	60.3	1	2.0	143	59.3
合計	66	100.0	61	100.0	63	100.0	51	100.0	241	100.0

就職資料室の利用状況についてたずねたところ、利用したことがある学生は約4割(98名、40.7%)だった。学年別に利用率をみると、1年生では4.5%(3名)と少数であるが、学年が上がるに従い増加し、4年生では98%(50名)とほぼ全員が利用していた。

Q48 就職資料室の利用目的は何ですか？(複数回答可)

選択肢	度数	%	累積%
1.求人票の閲覧	61	31.3	31.3
3.就職関連の情報収集	50	25.6	56.9
2.卒業生の受験届の閲覧	42	21.5	78.4
5.就職関連の問題集等の借用	19	9.7	88.1
6.下書き用の履歴書をもらう	17	8.7	96.8
4.インターンシップの情報収集	6	3.1	100.0
7.その他	0	0.0	100.0
合計	195	100.0	

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

Q47 で就職資料室を利用したことがあると答えた人に目的をたずねたところ、「求人票の閲覧」が最も多く3割以上で(61名、31.3%)、次いで順に、「就職関連の情報収集」(50名、25.6%)、「卒業生の受験届の閲覧」(42名、21.5%)であった。

7. 学生生活について

このセクションでは、学生の日常生活について把握するために健康状態、睡眠時間、食事などの質問を行った。

Q49 現在の健康状態はどうか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.非常によい	90	37.3	37.3
2.よい	97	40.2	77.5
3.良いとも悪いともいえない	51	21.2	98.7
4.悪い	3	1.2	100.0
5.非常に悪い	0	0.0	100.0
合計	241	100.0	

健康状態についての質問では、全般的に良好である回答が多く、「非常によい」、「よい」と回答した健康状態をよいとする学生は全体の7割弱（187名、77.5%）であった。一方、「よいとも悪いともいえない」という回答は2割強（51名、21.2%）で、また「悪い」と回答した学生も少数（3名、1.2%）いたが「非常に悪い」と回答した学生は0名だった。

Q50 1日の平均睡眠時間はどのくらいですか？（該当する番号1つ記入）

個人の平均的な睡眠時間は、6時間が最も多く全体の3割強（83名、34.4%）を占めた。一方、5時間以下の学生は全体の22.0%（53名）であった。

選択肢	度数	%	累積%
3時間以下	3	1.2	1.2
4時間	11	4.6	5.8
5時間	39	16.2	22.0
6時間	83	34.4	56.4
7時間	68	28.2	84.6
8時間	29	12.0	96.6
9時間以上	8	3.3	100.0
合計	241	100.0	

Q51 食事についてお尋ねします。

1日の食事の状況等について①～④の質問をした。

選択肢	①朝食		②昼食		③夕食	
		%		%		%
1.毎日食べる	134	55.6	212	88.0	217	90.0
2.時々食べる	79	32.8	28	11.6	24	10.0
3.ほとんど食べない	28	11.6	1	0.4	0	0.0
合計	241	100.0	241	100.0	241	100.0

朝食について、「毎日食べる」が全体の5割強（134名、55.6%）、一方、毎日きちんと摂取していない学生が4割以上いると考えられる。昼食や夕食については、ほとんどの学生が摂取しているようで、「毎日食べる」との回答が昼食、夕食ともに8割を超えた（昼食：212名、88.0%、夕食：217名、90.0%）。従って、一日の食事の中で最も抜かす傾向があるのは朝食であるといえる。

④大学で授業がある時、昼食は主にどのように済ませていますか。(複数回答可)

選択肢	度数	%	累積%
1.お弁当を持参	224	60.9	60.9
2.コンビニやお店、キッチンカー等で購入	108	29.3	90.2
3.大学の外にある飲食店で食事	16	4.3	94.5
4.自宅や寮に帰って食事	13	3.5	98.0
5.昼食は食べない	7	1.9	100.0
6.その他	0	0.0	100.0
合計	368	100.0	

昼食については、「お弁当を持参」するものが最も多く全体の約6割(224名、60.9%)であり、次いで「コンビニやお店、キッチンカー等で購入」(108名、29.3%)が多かった。学内に学食や購買部がないため、昼食のそのほとんどはお弁当の持参や近くのコンビニやお店のほか、令和3年度から導入されたキッチンカーも利用している。

Q52 現在、悩んでいることや不安に思っていることがありますか？

選択肢	度数	%
1.はい	98	40.7
2.いいえ	143	59.3
合計	241	100.0

現在、悩んでいること不安に思っていることがあると全体の4割の学生(98名、40.7%)が答えている。

Q53 Q52で「1. はい」と答えた人に聞きます。悩みや不安はどのようなことですか？(複数回答可)

選択肢	度数	%	累積%
4.将来の就職や進路とする目標が定まらないこと	56	21.2	21.2
6.将来の目標はあるが希望の仕事に就けるかどうか	42	15.9	37.1
1.経済的・金銭的な問題	41	15.5	52.6
3.良い成績が取れるかどうか	30	11.4	64.0
7.自分の性格や健康のこと	26	9.8	73.8
5.無事に卒業できるかどうか	23	8.7	82.5
2.学期末テストで合格できるかどうか	18	6.8	89.3
10.家族との関係	8	3.0	92.3
8.学内の友人との人間関係	6	2.3	94.6
11.大学教職員との関係	6	2.3	96.9
9.学外の友人との人間関係	3	1.1	98.0
12.その他	5	1.9	100.0
合計	264	100.0	

* 項目の右の数値は、調査した質問項目の番号

学生の悩みや不安の理由となる12の項目について当てはまるものを複数回答でたずねたところ、最も多かったのは「将来の就職や進路とする目標が定まらないこと」(56名、21.2%)の回答

であった。次いで、順に「将来の目標はあるが希望の仕事に就けるかどうか」(42名、15.9%)「経済的・金銭的な問題」(41名、15.5%)、「良い成績が取れるかどうか」(30名、11.4%)であり、これらの項目は有効回答数の6割以上を占める回答であった。この結果より、学生にとって最も大きな悩みは将来のことであることが読み取れる。

Q54 本学の助言教員制度についてどう思いますか？(該当する番号1つ記入)

本学の助言教員制度：1・2年次はクラス主任、3・4年次はクラス主任および卒業研究指導教員が助言・指導にあたる

助言教員制度について、「現在の助言教員制度のままでよい」とするのが120名(49.8%)、また「1・2年次より、卒論研究指導のゼミのような少数の指導があってほしい」とするのが30名(12.4%)で、このように特定の教員が学生を担当することに肯定的な意見が6割以上だった。一方、「助言教員制度自体を知らない」(86名、35.7%)とする学生も3割強いた。

選択肢	度数	%	累積%
1.現在の助言教員制度のままでよい。	120	49.8	49.8
2.1・2年次より、卒論研究指導のゼミのような少数の指導があってほしい	30	12.4	62.2
3.助言教員制度の必要性を感じない	4	1.7	63.9
4.助言教員制度自体を知らない	86	35.7	99.6
5.その他	1	0.4	100.0
合計	241	100.0	

Q55 具合が悪いときに、大学の保健室を利用したことがありますか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%
1.ある	78	32.4
2.ない	163	67.6
合計	241	100.0

Q56 保健室の利用に関する希望はありますか？(該当する番号1つ記入)

選択肢	度数	%
1.ある	3	1.2
2.ない	238	98.8
合計	241	100.0

Q57 具体的に希望がある場合はご記入ください。

Q55～Q57で保健室の利用状況についてたずねたところ、利用したことがあると回答したのは全体の約3割(78名、32.4%)であった。利用に関する希望について「ある」と答えた人は3名(1.2%)で、具体的な希望もなかった。ほとんどの学生が保健室利用について問題がないと感じていることがうかがえる。

Q58 何かこまったことがあった時に、学生支援室を利用したいといますか？(該当する番号1つ記入)

こまったことがあった時に、学生支援室を利用したいと思うかについてたずねたところ、「はい」と答えた人は全体で3割強(84名、34.9%)だった。

学年別では、「はい」と答えた割合が、1年生で半数以上（36名、54.5%）、2年生で5割弱、3年生で2割強、4年生で1割強だった。

選択肢	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1.はい	36	54.5	28	45.9	14	22.2	6	11.8	84	34.9
2.いいえ	30	45.5	33	54.1	49	77.8	45	88.2	157	65.1
合計	66	100.0	61	100.0	63	100.0	51	100.0	241	100.0

8. 迷惑行為について

このセクションでは、学内外の迷惑行為について把握するために、迷惑行為の経験の有無やまた実際に経験した際の相談相手などの質問を行った。

Q59 大学に入学してから次のような迷惑行為を受けたことがありますか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.受けたことはない	216	89.3%
6.宗教の勧誘	13	5.4%
2.インターネットによる誹謗中傷	4	1.7%
8.盗難(盗み)	4	1.7%
9.わいせつ(つけまわし、盗撮など)	3	1.2%
5.ストーカー	1	0.4%
7.大学内でのセクハラ・アカハラ	1	0.4%
3.ネット詐欺	0	0.0%
4.押し売り・強引な勧誘	0	0.0%
10.傷害	0	0.0%
11.その他	0	0.0%
合計	242	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

受けたことがある迷惑行為について複数回答可で質問した結果、迷惑行為を「受けたことはない」とする学生が有効回答数の約9割（216名、89.3%）を占めた。従って、迷惑行為を受けた経験は全体の少数派であるが、「宗教の勧誘」（13名、5.4%）が最も多く、次いで「インターネットによる誹謗中傷」（4名、1.7%）、「盗難」（4名、1.7%）、「わいせつ（つけまわし、盗撮など）」（3名、1.2%）、「ストーカー」（1名、0.4%）、「大学内でのセクハラ・アカハラ」（1名、0.4%）である。

以下のQ60～61については、Q59で迷惑行為を「受けたことがない」とした学生以外に質問を行った。

Q60 誰に相談しましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.友人	16	36.4
2.家族	8	18.2
3.クラス主任や卒業研究指導教員	8	18.2
8.誰にも相談しなかった	6	13.6
5.学生課	2	4.5
7.警察	2	4.5
6.学内の教職員	1	2.3
4.学生支援室	0	0.0
9.その他	1	2.3
合計	44	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

迷惑行為に遭った時の相談相手については、「友人」16名（36.4%）、「家族」8名（18.2%）が主で身近な人物に相談するケースが多い。大学の関係者または部署に相談したケースは、「クラス主任や卒業研究指導教員」8名（18.2%）「学生課」2名（4.5%）、「学内の教職員」1名（2.3%）であり、11名（25%）が相談している。専門機関への相談は、「警察」2名（4.5%）、であった。一方、「誰にも相談しなかった」学生も6名（13.6%）いた。

Q61 どこで被害を受けましたか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.大学敷地内	11	40.7
2.大学以外	16	59.3
合計	27	100.0

被害を受けた場所としては、「大学敷地内」11名（40.7%）、「大学以外」16名（59.3%）であった。大学敷地内での被害も多くはないものの存在するため、特にQ59の問いで発生しやすい「インターネットによる誹謗中傷」、「盗難」についてはガイダンスや学内掲示などで複数回にわたって注意喚起することや、学生自身に防止対策を持たせることも必要だろう。

9. 新型コロナウイルス感染症の影響について

このセクションでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響について把握するために、経済的な影響、オンライン授業について質問を行った。

Q62 新型コロナウイルスにより、退学・休学を考えたことはありますか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%
1.真剣に考えたことがある	11	4.6
2.考えたことがある	15	6.2
3.考えたことはない	215	89.2
合計	241	100.0

新型コロナウイルスによる退学・休学を考えたかについてたずねたところ、約1割(26名、10.8%)が「ある」と答えた。

Q63 新型コロナウイルスにより、不安を感じたことはありますか？（複数回答可）

選択肢	度数	%
1.不安は特にない	70	15.0
2.学業に関する不安	82	17.5
3.経済的な不安	80	17.1
4.就職活動に対する不安	93	19.9
5.友人関係に関する不安	15	3.2
6.健康に関する不安	86	18.4
7.社会情勢に関する不安	42	9.0
8.その他	0	0.0
合計	468	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

新型コロナウイルス感染症により、何かしらの理由により不安を感じた学生は8割以上(398名、85.0%)だった。最も多かったのは「就職活動に対する不安」93名(19.9%)、次いで順に、「健康に関する不安」86名(18.4%)、「学業に関する不安」82名(17.5%)、「経済的な不安」80名(17.1%)と続いた。

Q64 新型コロナウイルスにより、経済的に影響を受けましたか？（該当する番号1つ記入）

選択肢	度数	%	累積%
1.かなりあった	25	10.4	10.4
2.多少あった	100	41.5	51.9
3.あまりなかった	92	38.2	90.1
4.全くなかった	24	10.0	100.0
5.その他	0	0.0	100.0
合計	241	100.0	

Q65 経済的に影響があった場合、もしよろしければその理由を教えてください。(複数回答可)

選択肢	度数	%
1.アルバイト	87	64.4
2.家計	48	35.6
3.その他	0	0.0
合計	135	100.0

新型コロナウイルスにより、経済的な影響について、「かなりあった」「多少あった」と答えた学生は125名(51.9%)で、影響のなかった学生は116名(48.1%)だった。

Q64で経済的に影響があった、と回答した人にその理由をたずねたところ、6割強(87名、64.4%)が「アルバイト」で、次いで「家計」が48名(35.6%)だった。

Q66 コロナ禍において、大学生活で困っていることはありますか？(自由記述)

コロナ禍における困りごとについてたずねたところ、Q63の回答とも関連して具体的な内容が複数(44件、18.3%)あげられた。

Q67 オンライン授業の良かった点(メリット)を教えてください。(複数回答可)

選択肢	度数	%
6.感染リスク軽減など安全・安心を確保できる	168	28.5
5.時間を効率的に使える	142	24.1
7.病気やケガなどでも授業を受けることができる	91	15.4
1.集中しやすい	57	9.7
8.パソコンのスキルが身につく	54	9.2
9.オンライン授業は受けていない	30	5.1
3.教員に質問しやすい	26	4.4
4.自分の意見や考えを伝えやすい	20	3.4
2.教員の指示が分かりやすい・伝わりやすい	0	0.0
9.その他	1	0.2
合計	589	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

オンライン授業の良かった点で最も多かったのは「感染リスク軽減など安全・安心を確保できる」168名(28.5%)で、次いで順に、「時間を効率的に使える」142名(24.1%)、「病気やケガなどでも授業を受けることができる」91名(15.4%)、「集中しやすい」57名(9.7%)、「パソコンのスキルが身につく」54名(9.2%)だった。

Q68 オンライン授業の悪かった点(デメリット)を教えてください。(複数回答可)

オンライン授業の悪かった点は、「電子機器の長時間利用で疲れる」が最も多く(90名、18.5%)、次いで順に、「集中力が続かない、続きにくい」(78名、16.0%)、「教員の指示が分かりにくい・聞き取りにくい」(77名、15.8%)、「課題提出が難しい・手間である」(72名、14.8%)、「教員に質問しづらい」(53名、10.9%)、「勉強と自由時間(余暇時間)の区別がつきにくい」(47名、9.7%)と続いた。

選択肢	度数	%
6.電子機器の長時間利用で疲れる	90	18.5
1.集中力が続かない、続きにくい	78	16.0
2.教員の指示が分かりにくい・聞き取りにくい	77	15.8
7.課題提出が難しい・手間である	72	14.8
3.教員に質問しづらい	53	10.9
4.勉強と自由時間(余暇時間)の区別がつきにくい	47	9.7
5.インターネット環境が整っていない・不安定	39	8.0
8.オンライン授業は受けていない	30	6.2
9.その他	0	0.0
合計	486	100.0

* 項目の左の数値は、調査した質問項目の番号

Q69 その他、オンライン授業について何かあればご記入ください。(自由記述)

オンライン授業についてたずねたところ、Q67、Q68の回答とも関連して14件(5.8%)の記述があった。

Q70 何か気付いたことがありましたらご記入ください。(自由記述)

最後に、何か気付いたことがあれば自由に記述をしてもらったところ、14件(5.8%)の記述があった。

III まとめ

「1.日常生活について」「2. 課外活動について」「3. 経済状況について」「4. 修学状況について」「5. 大学施設について」「6. 進路志望について」「7. 健康について」「8. 迷惑行為について」「9. 新型コロナウイルス感染症の影響について」の質問内容別の要約をする。最後に、これらの令和3年度の学生生活調査の結果より考えられる本学の学生自身や生活などの特色をまとめ、今後の課題について述べる。

①質問内容別の要約

1. 日常生活について

住宅事情など住む所に困る学生がほとんどいないことがわかった。ただし、冬期間の通学に時間がかかるなど不便を感じている学生がいる。

2. 課外活動について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で課外活動が制限されたため、活動をする学生の減少傾向が見られた。これまで、本学における課外活動はその効果が内外から認められ社会貢献の一助を担ってきたが、在学生（特に2年生、1年生）は課外活動によるキャリア形成の涵養の機会がほとんどなかった。これをどう補完するかが課題である。

3. 経済状況について

全般に苦しいことがわかる。困窮学生に対するSA（スチューデントアシスタント）制度の確立などが課題である。

4. 修学状況について

入学動機については、「自分の希望する免許・資格がとれる」「地元にある大学だから」「高校の先生に勧められた」が約7割である。「少人数制できめ細かい対応が期待できる」「家族や親戚に勧められた」「自分の適性や学力に合っている」と続いている。このように免許・資格などといった理由と共に、学生本人が地元の大学を志向することや高校の先生や家族が勧めることも主な理由となっていることがうかがえる。地域とのつながりをより一層深めた学生募集や地域と連携した教育研究活動を推進することが必要である。一方、就職率の高さを理由に入学した学生は0名であった。就職率の高さに関心がないのか、就職できて当然と考えているのか、理由については不明である。近年、アドミッションポリシーを明示していることから、本学が、免許・資格を活かした就職が多いということが高校生に浸透していることも考えられる。

学生の所属している学科に対する満足度は全体で約50%であるが、「特に問題はない」を入れると82.2%となり、学科別でもほとんどが肯定的である。しかし、両学科とも1年生では満足度が90%を超えているが、学年が上がるに従い減じている。この理由や改善の可能性について探る必要がある。

学習科目に興味を持ってない傾向の学生が2割弱いる。また、約2割が思い通りに勉強ができて

いる実感がないと回答している。さらに授業内容が理解できない学生は約 6%と少数であるが、その理由として「履修すべき単位が多すぎる」があげられ、健康栄養学科では「勉強の仕方が分からない」「高校までの知識が不十分」と続いている。また、授業が分からなくても何もしない学生がいることがわかった。これらの学生には個別的な対応が今後必要だろう。

さらに、1日の授業以外の学習時間が30分未満の学生が約3割弱いる。特にこども発達学科では4割弱もあり、これは予習復習をほとんどしていないことを意味する。履修指導を行い、勉強する習慣や勉強時間の確保の方法などを支援する必要があるだろう。

「物事を分析する力」「問題を解決する力」「専門分野に関する理解力」「地域社会が抱えている問題への関心や理解」など社会人基礎力に関して概ね能力がついたが、「リーダーシップ力」は両学科で約2割、特に健康栄養学科では3割がついていないと回答した。この理由について、新型コロナウイルス感染症の拡大により学生の課外活動やアルバイトが制限されていることとの関連が予測される。大学として、在学生への支援に加え、卒業後も学び直しの機会が与えられるようリカレント教育の充実を図ることが必要であろう。

5. 大学施設について

図書館について非常によく利用されていることがわかった。開館時間についてはあまり問題ないが、早朝から開館を希望する学生がいた。また約3割が学業に必要な本や授業以外の本の購入を希望している。特にこども発達学科でその割合が高く、授業に合った最新の書籍を購入することも含め、学生のニーズを具体的に捉える必要があるだろう。

コンピュータ室について7割弱の学生が利用しているが「トラブルの対応をしてくれる人がいてほしい」「PCやソフトを最新のバージョンにしてほしい」「使えるPCの台数を増やしてほしい」など複数の要望が挙げられた。コンピュータ室の管理運営について検討が必要である。

6. 進路志望について

就職を希望している学生が多く、未定者はごく少数で1,2年生がほとんどである。入学後、早い段階からキャリア支援をし、就職情報を積極的に伝え、意識づけしている結果によるものである。外部の講師も含め複数回のガイダンスの開催により、働くことの意義や社会人として求められる力の理解も深まっている。就職資料室は調査時で約4割が利用しており、4年生はほぼ全員が利用している。その目的として「求人票の閲覧」「就職関連の情報収集」「卒業生の受験届の閲覧」が約8割を占めている。毎年1月～2月に行われている「4年生による就職活動報告会」と全体報告後の個別相談会で就職活動への取り組み方など具体的に学生の不安や悩みを相談できる場を設けている。

7. 学生生活について

ほとんどの学生の健康状態が良好であるが、4割が悩みや不安を抱えている。今後もクラス主任、卒業研究指導教員による助言教員制度や学生支援室があることを周知し、利用を積極的に勧めていく必要がある。助言教員制度自体は問題ないが、1,2年次よりゼミのような少数の指導を希望する学生が1割を超え、特にこども発達学科で割合が高いことから、全体に対する支援のほか個別に対応する体制についても考えてもよいだろう。

8. 迷惑行為について

約 90%の学生には問題がないが、残りの 10%に何らかの問題があることがわかった。学生生活を安全に過ごすため、警察署や近隣交番と連携しており、場合によっては大学近辺のパトロール強化なども依頼している。また、大学内の迷惑行為については、学生委員会、学生課、クラス主任や卒業研究指導教員、学生支援室、ハラスメント委員会などの学内組織と内容によっては保護者とも連携して教育的に指導しているが、相談体制があることを今後も学生に周知し、早期に解決できるように努めていきたい。

9. 新型コロナウイルス感染症の影響について

85%の学生が就職活動、健康、学業、経済的な面など何らかの不安を感じていたことがわかった。一方、オンライン授業によるメリット・デメリットがそれぞれ挙げられた。今後はいつオンライン授業に切り替わっても対応できるよう教員及び学生に対する支援策を講じておく必要がある。

②最後に

本学の学生の特徴は、地元志向が強い学生が多くいるということである。自宅通学の学生の多さ、就職希望地域からもいえるが、特に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、その傾向がさらに高まっている。入学動機も地元の大学、高校の先生に勧められたなど、地元のつながりが深い。また、多くの学生が免許資格を活かした就職を希望しており、複数の免許資格取得を目指している。これは本学の教育目標や教育理念を反映したアドミッションポリシーが、入学希望者に対して明確に示され、その理念と学生の求める教育の在り方が合致していることによるものといえる。また、学生の修学状況も熱心で、自分の目標を定め日々学業に励む学生も多い。小規模ながらも地元と深いつながりを持ち、教育を地道に続けてきた実績があることは喜ばしい。

しかし、一方で複数の免許資格を取得するために、学生の一週間当たりの授業時数が増え、時間割も過密になっている。また、経済的に困窮しアルバイトをする学生も多いことから予習復習時間が確保しにくいことが課題である。修学状況を早期に掌握し、関係教職員が連携して指導することと、場合によっては取得免許・資格を整理するなど、学生個々に対応した支援が一層必要となる。

本学の長年の強みである、小規模校ならではの教職員による学生に対するきめ細かな対応は今後も活かしていくべきものであるが、時代とともに変化していく学生の様相やそれに対応した指導は日々変えていく必要がある。今後も今回のような学生生活調査を続け、学生の状況を把握していく必要がある。

学生生活に関する実態調査報告書

令和3（2021）年度

令和4年5月1日発行

編集：柴田学園大学 学生委員会・学生課

発行：柴田学園大学出版会

〒036-8530 青森県弘前市清原1丁目1-16

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

<https://univ.shibata.ac.jp>